

親知らずってどんな歯？

親知らずとは・・・

奥歯のまたさらに奥に、そして一番最後に生える歯です。食事が軟らかくなり、噛む回数が減ったなどの影響で、日本人の顎は近年小さくなる傾向にあります。親知らずが生える頃には、他の歯は生え揃っているため、結果的に親知らずが生えるスペースが不足する人が増えているのです。

しかし、親知らずは現在は退化傾向にあり、少しずつ小さくなっています。また先天的に生えない人が増えています。そのため、歯全体の噛み合わせに寄与する力も小さくなっています⇒親知らずはなくても困らない歯に！！



Q どんな時抜歯をするの？

まっすぐ生えていて、上顎と下顎の親知らずがしっかりと噛み合っている場合は抜く必要はありません。トラブルが起こり始めている、ごく近い将来トラブルとなるであろうと予測されるときに「抜かなければならない」と診断します。

トラブルが生じる親知らず・・・こんなことが起こります！！

①虫歯になる

親知らずが隣の歯に向かって斜めに生え、歯間の清掃が難しく汚れが溜まりやすいため、隣の歯が虫歯になりやすい。

②歯ぐきに炎症が起こる

生えかかっているところの歯ぐきはデコボコして汚れが溜まりやすいため、ばい菌に感染しやすい。感染すると歯ぐきは腫れて痛むようになってしまう。

③炎症のため周囲の顎の骨が溶けてなくなる

歯ぐきの炎症により歯を支える顎の骨が溶け、その場所にさらに汚れが溜まりやすくなることで、炎症→顎の骨が溶ける…といった悪循環になる。悪循環が続くと隣の奥歯を支える骨にまで広がり、グラグラの状態になってしまうことも！

④隣の歯が生えてくるのを邪魔する

親知らずが顎の骨の中で横向きに成長し、先に生えて出ようとする奥歯の邪魔をする。→



⑤歯並びが悪くなる

横向きに生えている親知らずにより、隣の歯は押しされ、その力の影響でドミノ倒しのように歯並びが悪くなってしまいます。

まっすぐに生えている親知らずが将来役に立つことも！

他の歯と同様にケアをしっかりとし大切にしておくと、一番奥の歯を失ったときには親知らずをブリッジの支台として使うこともできます。また、残った親知らずを傷つけないように抜いて歯を失ってあいてしまった所に移植することも出来るかもしれません。



抜歯前の注意点

◎睡眠

前日は十分な睡眠をとるよう心がけ、疲れを取って体調を整えましょう。

◎食事

食事は軽く済ませておくとよいでしょう。手術後1～2時間はまだ麻酔も効いており痛みもあって食事を取れない場合も考えられます。麻酔が効いていると口の中の感覚がないため、間違えて舌や頬を噛んでしまうことがあるので注意が必要です。

◎歯磨き

清潔な状態で抜歯をうけていただきたいので、来院前に歯磨きをしてきて下さい。



歯を抜くと言うことで緊張しますし不安もあると思います。30分～1時間椅子にずっと座り続けることで疲れも出るかと思うので、抜歯前は時間に余裕を持ち体調を整えるようにしましょう。

抜歯後の注意点

◎当日は禁酒・禁煙をしてください。

アルコールは血流をよくし、痛みや出血の原因になってしまいます。タバコには有害物質が多く含まれているので、口の中を清潔にするためにも禁煙してください。

◎長時間の入浴・過激な運動は避けてください。

長湯・過激な運動は血行がよくなり痛みや出血の原因となります。

◎食事の際は患部を刺激しないよう注意してください。

抜歯した反対側で噛み、刺激が強い食べ物も控えてください。

◎傷口を指や舌で触らないでください。

◎必要以上にうがいをしないでください。

出血がとまらなくなります。血の味がどうしても気になる場合は唾を吐き出したり、軽くゆすぐ程度でお願いします。ブクブクうがいは避けてください。